

# 弘前市立博物館 ニュースレター

## No. 15

令和6年8月号

Hirakawa City Museum Newsletter

■残暑お見舞い申し上げます&特別企画展「発掘された日本列島2024」まもなく終了となります。

暦の上ではすでに秋となりましたが、まだまだ蒸し暑い日が続いております。読者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、当館は特別企画展「発掘された日本列島2024」会期の最中です。ありがたいことに、本展でも日々多くのお客様にお越しただいております。ちょうど夏休みシーズンやお盆時期と重なったこともあり、様々な年齢層の皆様楽しんでいただけているものと思います。8月10日(土)の三内丸山遺跡センター所長 岡田康博さんをお招きした講演会では、約70人のご参加をいただき遺跡への興味関心が高いことを実感したところです。

そんな本展ですが、残る会期は1か月を切り、9月16日(月・祝)に最終日を迎えます。全国各地の遺跡や三内丸山センターからお借りした資料、また今号でも紹介する「いのち」と「くまっち」のコンビなど、今回しか見られない展示は必見です。これからご覧になる方も、すでに一度ご覧になった方も、お誘いあわせの上ぜひ会期中にご来館ください。

(館長 熊谷)

■「発掘された日本列島2024」のおすすめ出土品！

それでは担当学芸員より、展示資料の中からおすすめをいくつかご紹介します。

まずは、展示室内でひと際目を引くのは、古墳で見つかった大きな埴輪の数々でしょう。埴輪といたら中高年の方(何を隠そう私もそうですが)なら覚えていらっしゃるでしょうか。NHKの教育テレビで80年代に放送された『おーい！はに丸』には、人の形をした「はに丸」と馬形の「ひんべえ」が出ていましたよね。なんと、今回展示中の群馬県伊勢崎市にある石山南古墳群出土品のなかに「はに丸」と「ひんべえ」にそっくりな埴輪がお目見えしているのです。



▲人物埴輪と馬形埴輪(石山南古墳群出土)

子供の頃に「はに丸」をテレビで見た世代の方は、当時を思い出しながらご覧ください。そうでない方にも、青森県ではなかなかお目にかかれない埴輪を見ていただき、その大

きさと迫力を実感してもらいたいです。

もう一つおすすめをご紹介します。北海道南西部の今金町にあるピリカ遺跡から出土した、旧石器時代の石器です。「ピリカ」とは、アイヌ語で「美しい」という意味だそうです。この遺跡からは今から約2万5千年前から約1万5千年前までの石器が20万点以上も見つかっています。

その中でも特に注目されるのは、長大な43点もの石刃(縦に細長く、両側の縁が鋭く、ナイフのように使用される石器)と石核(石器を剥ぎ取るための芯となる石)が接合し、長さ44㍉にも及び接合資料で、ピリカ遺跡を代表する石器です。



▲接合資料個体No.2 ピリカ遺跡

石核の打撃部には丁寧な調整が施され、剥離に必要な力を一点に集中させる高度な技術が見られます。その製作技法は現代の研究者にも再現が困難なもので、「石刃剥離技術の頂点」と評されています。大き

博物館公式  
instagram



最新の博物館情報、発信中！



博物館公式  
Facebook

な石から細長いナイフ状の石を剥ぎ取る腕のよい職人のワザをぜひご覧ください。

(「発掘された日本列島2024」担当学芸員 三國)

## ■特別講演会「わたしたちの縄文世界遺産」を開催しました

8月10日(土)、特別企画展1「発掘された日本列島2024」の地域展に貴重な資料をご提供いただいた三内丸山遺跡センター所長の岡田康博さんによる講演会を開催しました。テーマは「わたしたちの縄文世界遺産～その魅力と未来を語る～」。



### ▲熱く語る岡田講師

岡田さんは三内丸山遺跡の発掘調査に当初から携わっていた方で、北海道・北東北の縄文遺跡群をユネスコ世界文化遺産登録にまで押し上げた功績のある方です。

講話の前半はそもそも縄文時代とはどのような時代なのか、その基本的な認識からご説明され、縄文時代にあった植生の変化や、土器の出現がいかにかの暮らしを豊かにしたのか、わかりやすくお話しくださいました。

続く後半は世界遺産とはどのようなもので、どれだけ厳しい登録までの道であったか、また縄文文化の普遍的価値を証明するためにどれ

だけ多くの課題をクリアしなければならなかったのか、時には熱く、時にはユーモアを交えてお話しくださいました。

約70名の参加者の皆様も、縄文世界遺産はゴールではなく、さらに魅力を向上させるための新たな出発点という岡田さんのメッセージを、しっかりと受け止めていました。

(「発掘された日本列島2024」担当学芸員 三國)

## ■「8のつく日」ミニ解説開始!

「は(8)くぶつかん」にちなんで、展覧会会期中の「8のつく日」に、ミニ解説を始めました。15分程度で、展覧会の見どころを紹介します!

8月8日の回では、古墳時代の鶏形埴輪を前に造形の特徴や面白さについて語りました。



### ▲8月8日の様子

8月18日の回では、栗橋宿関連遺跡群の展示資料を見ながら、江戸時代の宿(宿場)の様子について解説しました。



### ▲8月18日の様子

ミニ解説は、事前申込不要、飛び入り参加OKですので、皆様お気軽にご参加ください!

※9月は8日午後2時から開催予定

## ■「お友だちカード」を配布中!

8月24日(土)から、観覧者プレゼントとして「お友だちカード」の配布を開始しました!

「お友だち」とは、当館随一の人気者である「いのっち」こと猪形土製品と、青森県立郷土館所蔵のクマ形土製品(「くまっち」と当館では勝手に呼んでいます)が仲良く並んでいる姿から名づけられています。

前号でも簡単にご紹介しましたが、この二つと一緒に並ぶのは3年ぶり。展示で実際に並ぶ二つをご覧になった上で、キュートなこの一枚も楽しんで眺めてみてください!

なお、このカードはお一人様一枚まで、展示をご覧になる方のみ配布しています。「発掘された日本列島2024」の会期中お配りする予定ですが、なくなり次第終了となります。あらかじめご了承ください。



### ▲「お友だちカード」

## ■休館日のお知らせ

**9月17日(火) ~ 9月27日(金)**

展示替えのため、上記期間は休館日となります。ご了承ください。